

大阪歯科大学 2027 年度 学校推薦型選抜数学対策講座

● 数学対策講座の講義内容

- ① 学校推薦型選抜の傾向分析，対策
- ② 過去問解説

● 学校推薦型選抜の傾向分析

出題範囲 . . . 数学ⅠⅡABC(ベクトル)

出題形式 . . . 大問3題，60分(2023年度までは50分)，記述式

難易度 . . . 教科書章末問題レベル

出題傾向 . . . 例年，[Ⅰ]は小問集合，[Ⅱ]，[Ⅲ]は記述式の大問である。

出題範囲から幅広く出題されるので苦手分野を作らないようにしたい。幅広く出題される中で，特に**確率と微分積分が頻出**である。参考書などでは見かけない形式の問題が出題されることもあるが，特別な考え方を要するわけではなく，どの問題も典型問題の考え方を正しく理解していれば解けるように工夫されている。ただ解法を暗記しているだけか，しっかりと数学的な考え方が身についているかで点数に大きな差が出る出題となっている。

● 対策

① 教科書の練習問題，章末問題が自力で解けるようにする

まずは教科書に掲載されている問題の考え方をしっかりと頭に入れること。その際、「この問題はどのように解く」というように問題の解き方を覚える勉強法では、普段と異なる設定で出題された際に対応できるようにはならない。「解き方を覚える」のではなく「頭の使い方，数学的な考え方を学ぶ」という意識で取り組もう。

② 教科書章末，入試典型レベルの問題演習を繰り返す

教科書レベルの問題がある程度解けるようになったら，教科書章末レベルから入試典型レベルの問題演習を繰り返し，思考力，計算力，論証力を磨こう。少々煩雑な計算でも自力で解き切れるように，普段から計算をさぼることなく，最後まで解き切ることを心がけよう。また，例年[Ⅱ]，[Ⅲ]は記述式であるので，普段の演習から論理的に解答をまとめる訓練を積んでおこう。解答が作成できたら，自分が書いた解答を最初から読み，分かりにくい箇所や論理の飛躍がないかチェックするようにしよう。

③ 過去問を数年分解いて難易度，時間配分の感覚を養う

過去数年の出題を見る限り，**出題傾向，難易度は毎年ほとんど同じ**なので，過去問を数年分解いて難易度や時間配分の感覚を養っておこう。解けなかった問題については，どの考え方が身につけていなかったかを必ず分析し，「解き方」ではなく「考え方」を頭に入れるようにすること。さらに，その考え方をういた類題を，他の参考書や問題集を用いて必ず演習を行うこと。そして，再び解けなかった問題をやり直し，それが解けるようになれば次に進む，といった感じで進めていこう。